

2025年3月期
決算説明資料

2025年5月27日

小池酸素工業株式会社

証券コード 6137

目次

■ 2025年3月期 決算の概要	P2
■ 2026年3月期 業績予想	P18
■ 中期経営計画 NEXT STAGE 2026 進捗状況	P21
■ APPENDIX	P26

2025年3月期 決算の概要

2025年3月期 連結決算サマリー

- 2025年3月期は売上高・利益とも伸長し、売上高、営業利益、経常利益は過去最高を計上。また、各利益率とも前年比で向上。
- 業績をけん引したのは機械装置セグメント。DBCファイバーレーザー切断機や、サウジアラビアで新造船所向けに設備納入が進んだこと等、引続き中大型機の販売が好調に推移。

(百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	売上比	2025年 3月期	売上比	伸び率 (前年比)
連結売上高	41,834	47,871	51,387	100%	55,206	100%	+7.4%
売上総利益	12,213	14,020	15,638	30.4%	17,867	32.4%	+14.3%
販売費及び 一般管理費	10,523	10,728	11,323	22.0%	12,419	22.5%	+9.7%
営業利益	1,690	3,292	4,314	8.4%	5,448	9.9%	+26.3%
経常利益	2,063	3,786	5,149	10.0%	6,046	11.0%	+17.4%
親会社に帰属する 当期純利益	995	2,065	3,056	5.9%	3,633	6.6%	+18.9%

セグメント別決算概要

- DBCファイバーレーザー切断機や、サウジアラビアで新造船所向けの設備納入が進んだこと等、中大型機の販売が引続き好調に推移したことを主因に、機械装置セグメントの業績が大幅に伸長。
- 高圧ガスセグメント、溶接機材セグメントは、前年比で減益。しかしながら引続き安定的に推移しており、会社全体の業績を下支え。

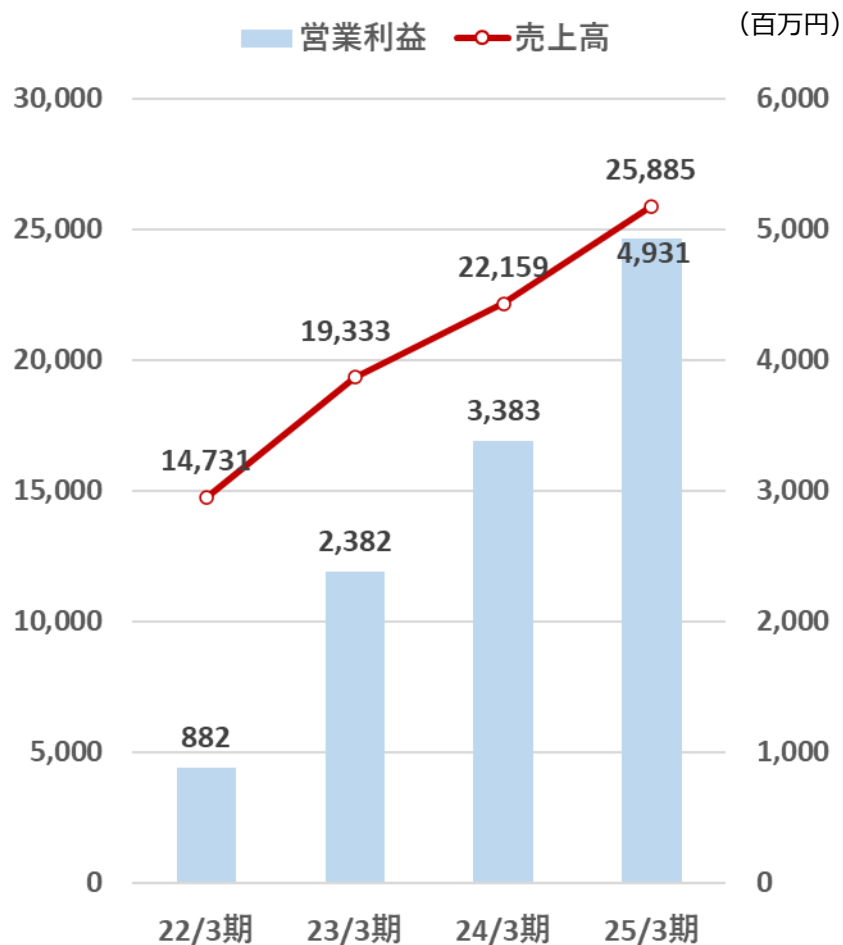
(百万円)

	2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期		前年比	
	売上高	営業利益※1	売上高	営業利益※1	売上高	営業利益※1	売上高	営業利益※1	売上高	営業利益※1
機械装置	14,731	882	19,333	2,382	22,159	3,383	25,885	4,931	+3,726	+1,548
高圧ガス	18,830	1,314	19,264	1,454	20,103	1,455	20,400	1,372	+297	△83
溶接機材	7,906	490	8,588	574	8,343	604	8,164	583	△179	△21
その他	366	20	684	184	780	231	756	192	△24	△39
単純合計	41,834	2,708	47,871	4,596	51,387	5,674	55,206	7,079	+3,819	+1,405
調整額※2	—	△1,017	—	△1,303	—	△1,359	—	△1,631	—	△272
連結	41,834	1,690	47,871	3,292	51,387	4,314	55,206	5,448	+3,819	+1,134

※1 営業利益：各セグメントの数値は調整前ベース

※2 調整額：報告セグメントに帰属しない全社費用（一般管理費）等

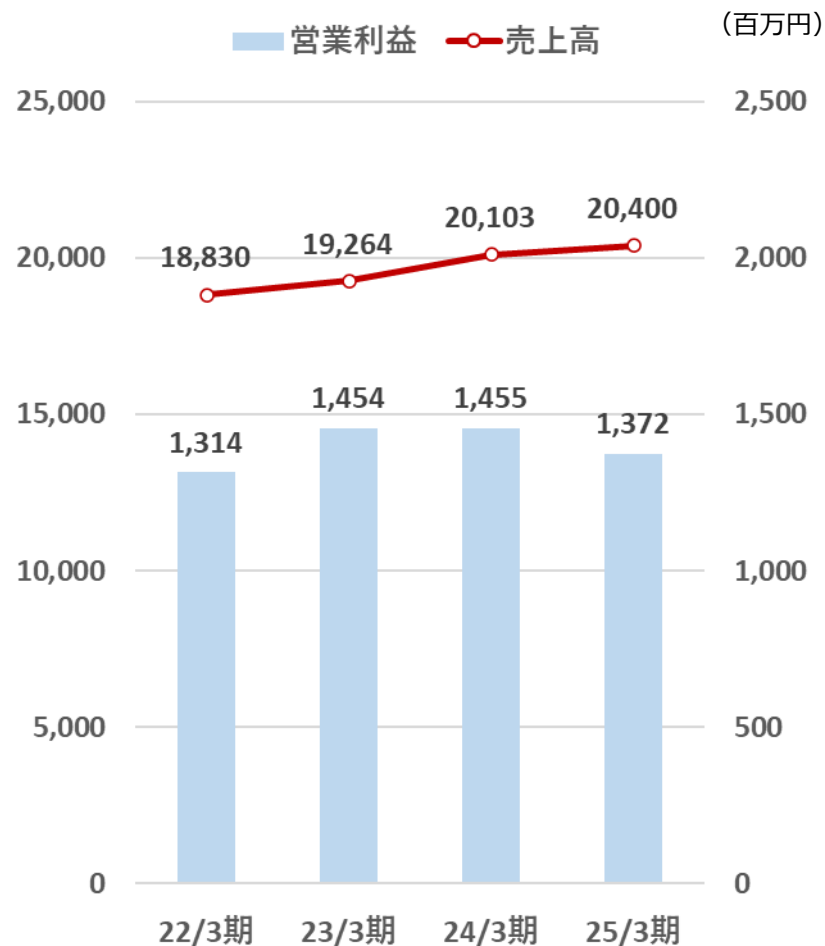
セグメント別決算概況：機械装置セグメント



- 機械装置セグメントは、前年同期比で売上高・営業利益とも大幅に伸長。
- 国内市場では、DBCファイバーレーザー切断機が引続き好調に推移。また、自動化、省力化、IT化などお客様の課題解決を実現する新製品を発売し新規顧客の獲得が進んだことも寄与。
- 昨年11月には「2024 KOIKEプライベートフェア」を開催し、DBCファイバーレーザー切断機の納入ユーザーによる講演会や新切断技術による厚板高品質切断の実演等により、多数の引き合いを獲得。
- 海外市場では、サウジアラビアの新造船所向けの設備納入の進展が寄与。

※営業利益は全社費用等の調整前ベース

セグメント別決算概況：高圧ガスセグメント

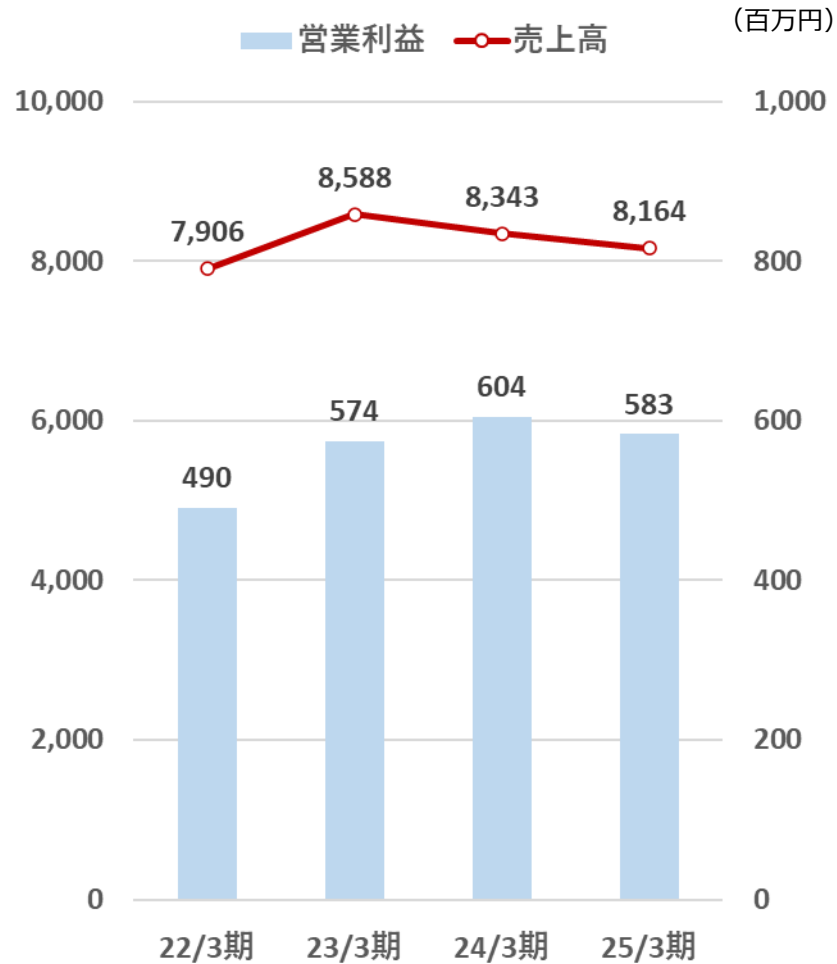


- 高圧ガスセグメントは、前年同期比で売上高は増加、営業利益は減少。
- 産業ガス分野では、原材料や物流コストの高騰等に伴う価格改定や新規拡販活動に注力。
- 医療分野では、仕入価格の上昇等に伴う価格改定、CPAP※レンタルや院内感染防止対策機器の営業活動を強化し、売上高は増加するも、人件費の増加などにより営業利益は減少。

※CPAP：睡眠時無呼吸症候群患者の呼吸をサポートする器具

※営業利益は全社費用等の調整前ベース

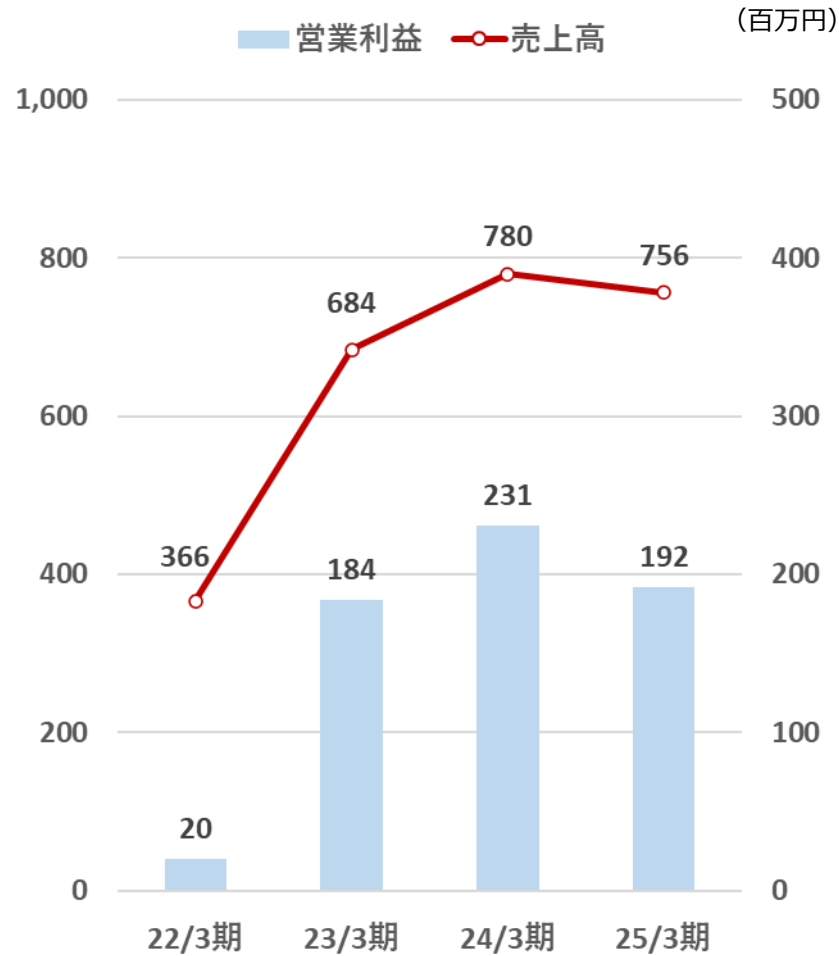
セグメント別決算概況：溶接機材セグメント



- 溶接機材セグメントは、前年同期比で売上高・営業利益とも減少。
- 新商品であるファイバーレーザ溶接機の販売成果は上がるも、建設・産業機械業界の需要低迷により溶接材料などの出荷量が減少したことが要因。

※営業利益は全社費用等の調整前ベース

セグメント別決算概況：その他



- その他セグメントは、売上高・営業利益とも減少。
- 海外向けの排ガス処理装置の販売は好調に推移するも、ヘリウム回収精製装置の受注減少が要因。

※営業利益は全社費用等の調整前ベース

地域別売上高

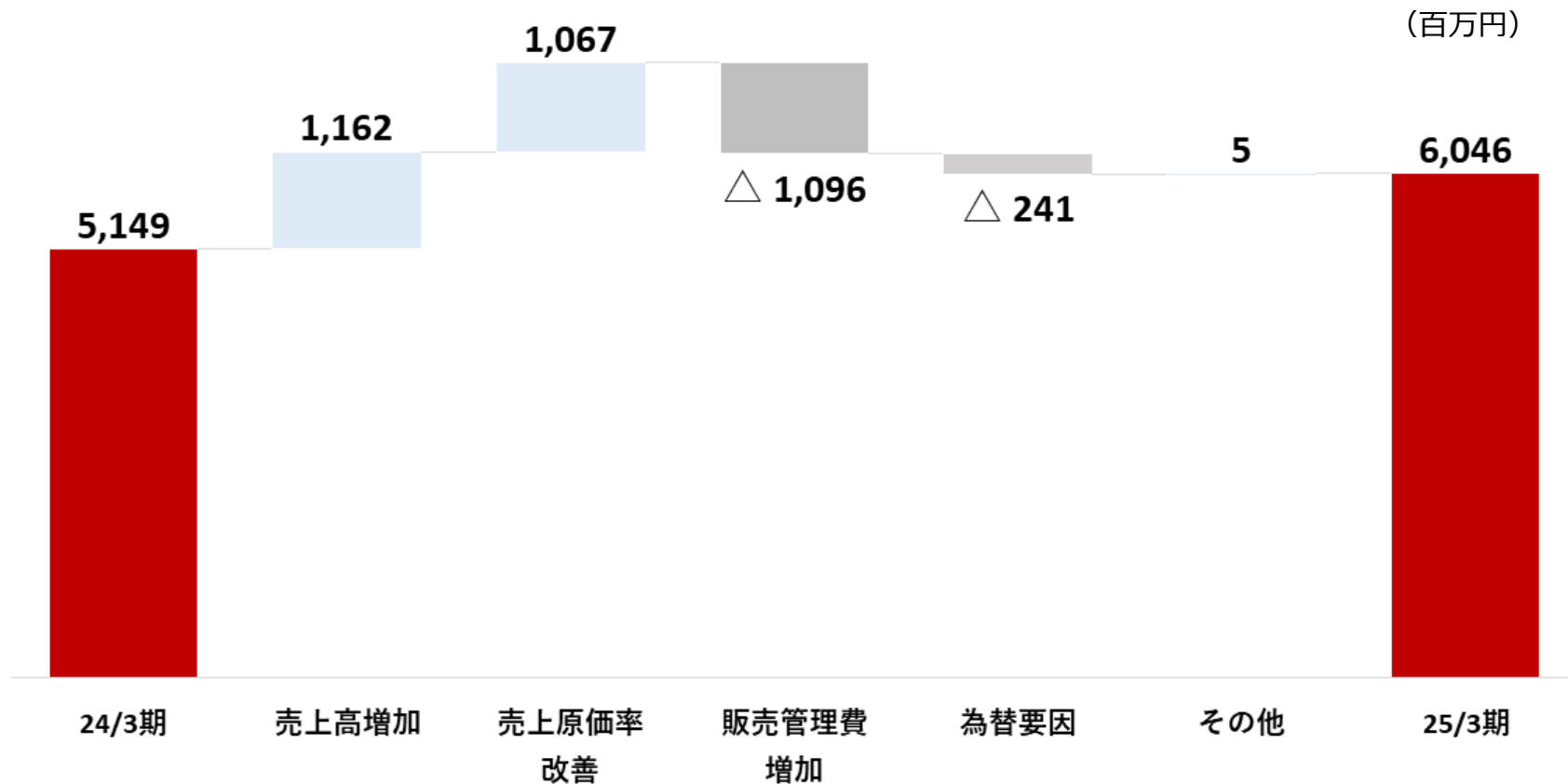
- 海外売上高は北米とアジア（主に韓国・中国）を中心に全体の約27%。
- 前年からの伸び率は特にアジアにおいて高いが、サウジアラビア案件の寄与が大きい。

（百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	構成比	2025年 3月期	構成比	伸び率 (前年比)
日本	34,223	37,588	39,226	76.3%	40,400	73.2%	+3.0%
北米及び 中南米	3,355	4,988	6,108	11.9%	7,245	13.1%	+18.6%
アジア	3,154	4,204	4,896	9.5%	6,422	11.6%	+31.2%
欧州	1,015	1,065	1,051	2.0%	1,097	2.0%	+4.4%
その他の地域	84	24	106	0.2%	41	0.1%	△61.3%
合計	41,834	47,871	51,387	100%	55,206	100%	+7.4%

経常利益増減要因

- 中大型機械装置の販売が好調であったことを受けて、経常利益は大幅に伸長。販売管理費増加や為替要因によるマイナスの影響をカバー。
- 販売管理費増加は給与引き上げ、採用増による人件費増や、展示会出展等の営業活動活発化が要因。



連結貸借対照表

- 資産の部 : 現預金（含短期有価証券）+403百万円、
有形固定資産（建物及び構築物、工具・器具及び備品、リース資産等）+600百万円
- 負債の部 : 仕入債務△846百万円、前受金△1,198百万円
- 純資産の部 : 利益剰余金+2,791百万円

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前年比
資産の部					
流動資産	33,613	37,563	41,247	41,686	+439
固定資産	26,322	27,371	32,228	33,048	+820
資産合計	59,935	64,934	73,476	74,735	+1,259
負債の部					
流動負債	20,088	23,274	24,241	22,565	△1,676
固定負債	6,153	5,580	6,850	6,597	△253
負債合計	26,241	28,855	31,092	29,163	△1,929
純資産の部					
株主資本	26,394	27,931	30,487	33,396	+2,909
その他包括利益累計額	4,390	5,281	8,858	9,160	+302
非支配株主持分	2,907	2,866	3,037	3,014	△23
純資産合計	33,693	36,079	42,384	45,571	+3,187
負債純資産合計	59,935	64,934	73,476	74,735	+1,259
(自己資本比率)	(51.4%)	(51.1%)	(53.5%)	(56.9%)	(+3.4%)

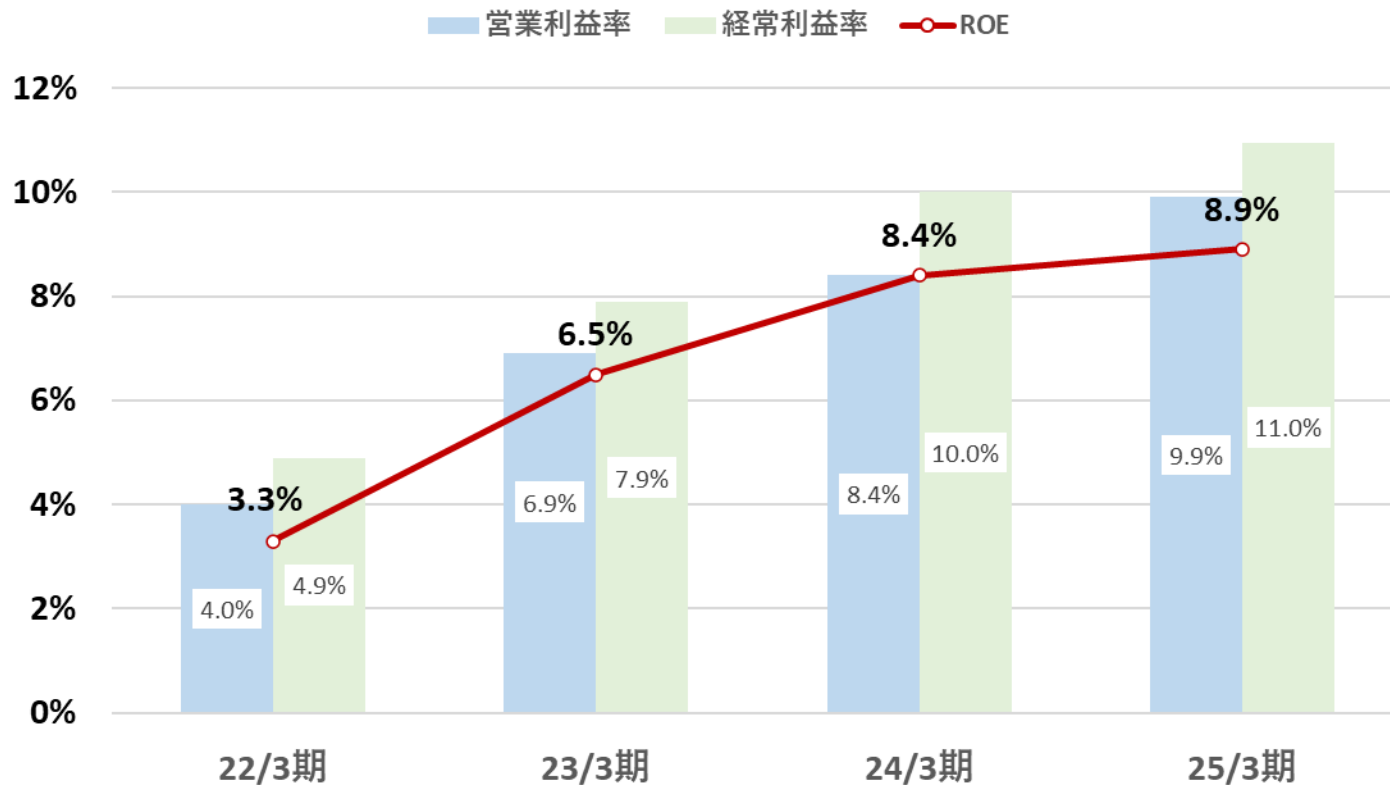
キャッシュ・フロー計算書

- 営業CF：減価償却費1,631百万円、売上債権増加1,004百万円、仕入債務減少1,189百万円
- 投資CF：有形固定資産取得による支出1,289百万円
- 財務CF：長期借入金・ファイナンスリース債務返済1,115百万円、配当金支払842百万円、子会社自己株式取得523百万円
- 営業CFについては、引続き成長に向けた投資や株主還元等に活用する方針 (百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前年比
営業活動による キャッシュ・フロー	3,784	5,644	4,266	3,667	△599
投資活動による キャッシュ・フロー	△712	△2,043	△1,239	△1,318	△79
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,514	△1,692	△1,496	△2,221	△725
現金及び現金同等物に係る 換算差額	169	367	86	259	+173
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	1,726	2,275	1,617	387	△1,230
現金及び現金同等物の 期首残高	10,571	12,297	14,573	16,190	+1,617
その他の現金及び現金同等物 の増減額（△は減少）	-	-	-	△84	△84
現金及び現金同等物の 期末残高	12,297	14,573	16,190	16,493	+303

経営指標推移

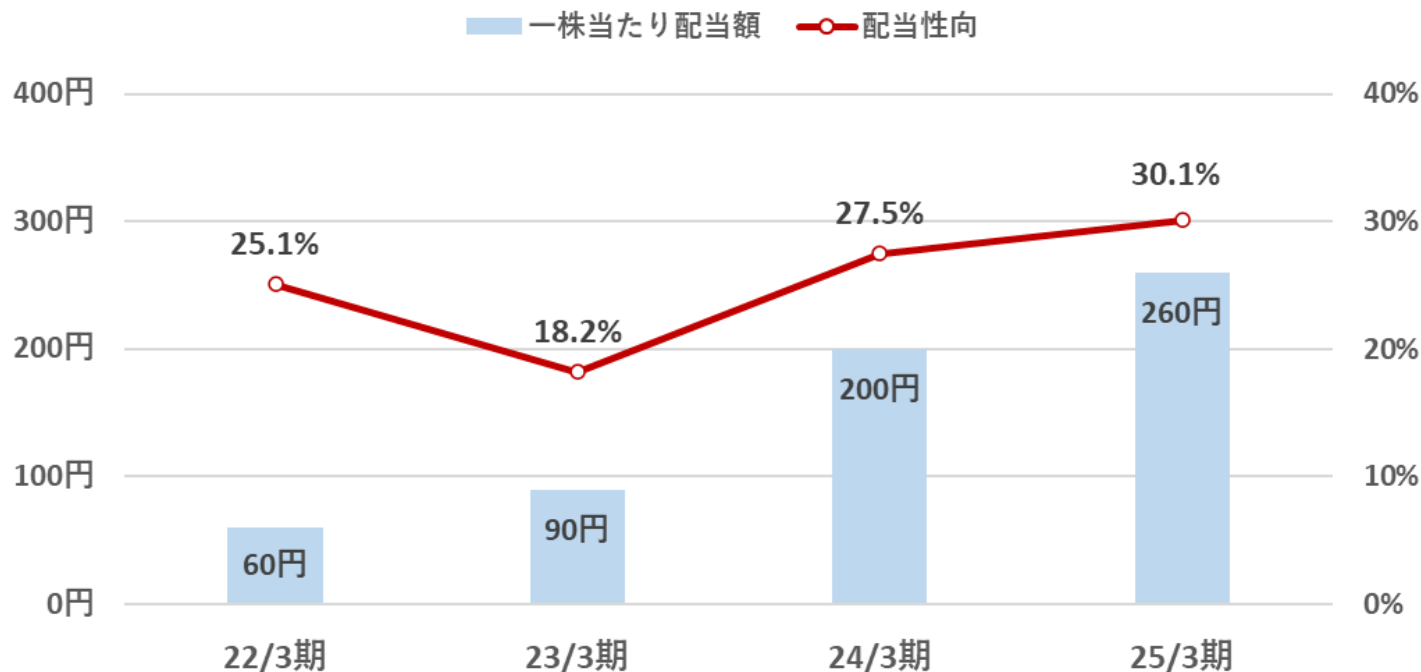
■ 各利益率の改善により、2025年3月期のROEは8.9%。



株主還元状況（配当）

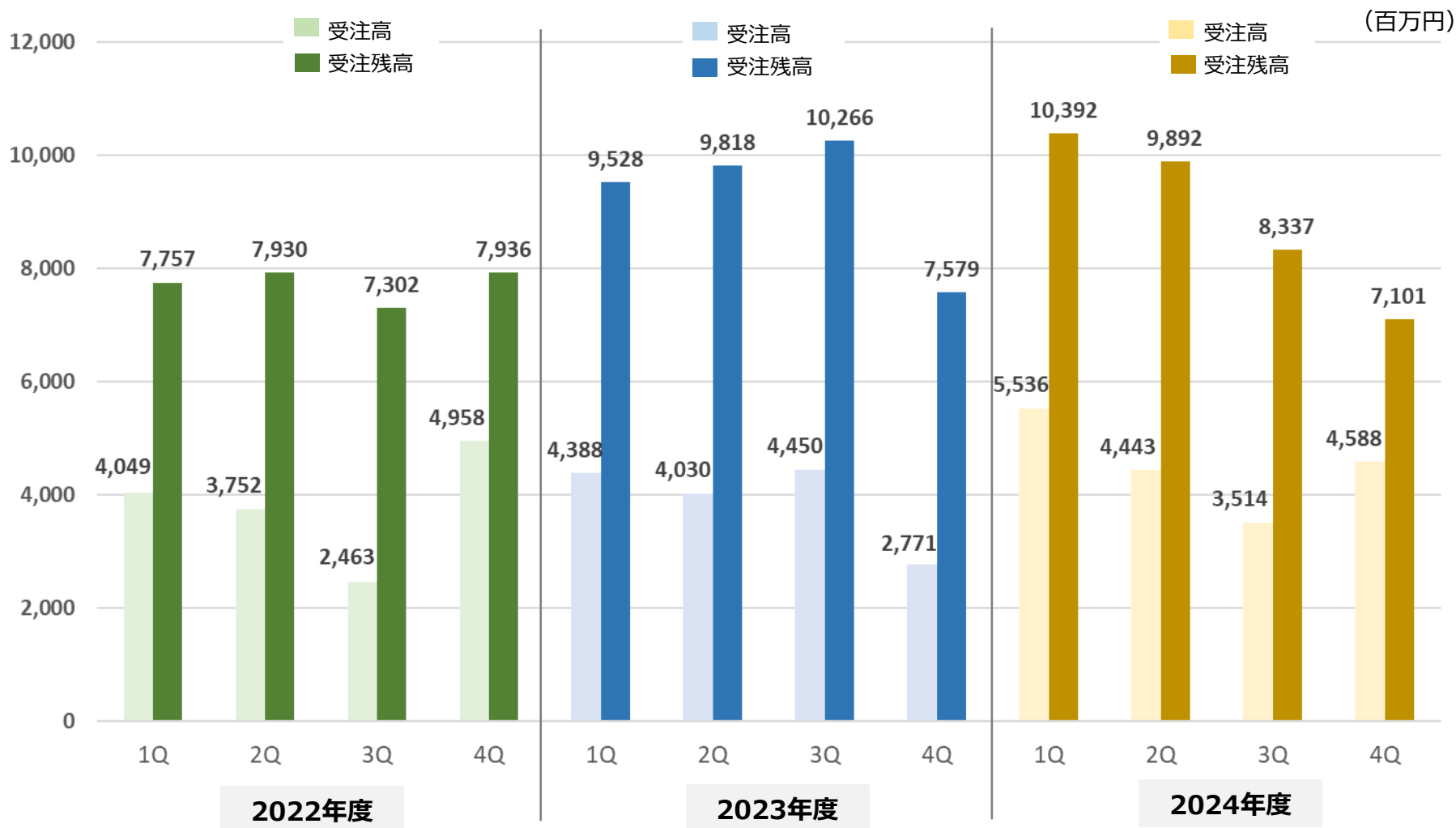
- 当社は中計経営計画で公表の通り、配当性向30%以上とすることを基本方針としながら安定的な配当を目指している。第2四半期時点の通期業績予想を大きく上回る業績となることから、一株当たり260円の配当を予定。

（注）当社は2025年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。
グラフでは当該株式分割前の配当金の額を記載。



受注高・受注残高推移（機械装置セグメント）

- 2024年度3Q以降の受注残高は、前年同期比で下回っているが、主にサウジアラビア分。
- サウジアラビア分を除けば、DBCファイバーレーザ切断機等、受注残高は引続き高い水準を維持。

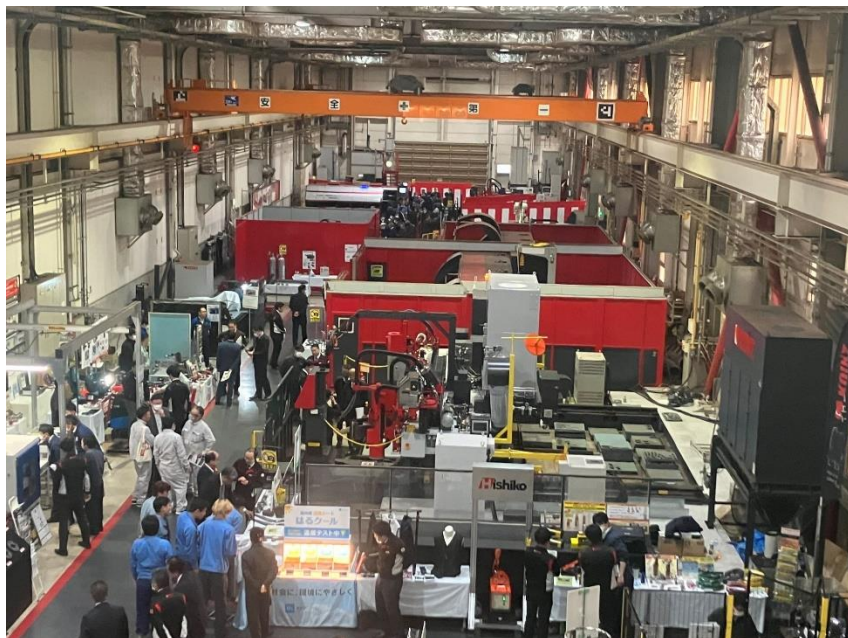


※受注高は四半期ごとの数値、受注残高は各四半期末時点の数値

2024年度下半期トピックス①

プライベートフェア開催

- 2024年11月6日～8日、11月20日～22日の日程で千葉市にあるKOIKEテクノセンターにて開催。
- 開催テーマは「DBC切断に勝るものは何もない」とし、DBCファイバーレーザ切断機の納入ユーザーによる講演会や新切断技術による厚板高品質切断の実演等により、多数の引き合いを獲得。



ファイバーレーザ溶接機を新たに販売開始

- 近年、ハンディタイプのファイバーレーザ溶接機への需要が高まっている。お客様の工場において、人手不足や技術伝承に課題がある中、取り扱いやすく、溶接スピードが速く、仕上がりが良い点が支持されている。
- 溶接機材セグメントでは、MAX photonics社製のファイバーレーザ溶接機を新たに販売開始し、拡販中。



ハンディタイプ
ファイバーレーザ溶接機



2024年度下半期トピックス②

東北営業所新社屋竣工

- 2024年12月に東北営業所（仙台市）の新社屋を竣工。
- 子会社の小池メディカル、コイケ酸商と入居するとともに、ESGの観点から太陽光発電設備を導入し、CO2削減を見込む。



千葉ロッテマリーンズオフィシャルスポンサー契約締結

- 千葉ロッテマリーンズと2025年シーズンにおけるオフィシャルスポンサー契約を締結。
- 千葉県内に主要拠点を持つ会社として千葉ロッテマリーンズの地域貢献活動や、勝利に向けた理念に共鳴し、今回の契約締結に至ったもの。



小池酸素工業はオフィシャルスポンサーとして
千葉ロッテマリーンズを応援しています。



Copyright © Chiba Lotte Marines. All Rights Reserved.



2026年3月期 業績予想

業績予想（連結）

- 当社グループ全体では、売上高はサウジアラビア案件の寄与がなくなるが、ほぼ横ばいを見込むも、給与引き上げ・採用増加による人件費増、また、システム関連費用の増加等から、営業利益、経常利益は減少を予想。
- 一株当たり配当は、48円を予想。

（百万円）

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減金額	増減率
連結売上高	55,206	55,000	△206	△0.4%
営業利益	5,448	5,100	△348	△6.4%
経常利益	6,046	5,600	△446	△7.4%
親会社に帰属する 当期純利益	3,633	3,200	△433	△11.9%
一株当たり配当	260円 (予定)	48円	-	(配当性向) 31.6%

（注）当社は2025年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。2025年3月期までは、当該株式分割前の配当金の額を記載。2026年3月期（予想）については、当該株式分割後の配当金の額を記載

業績予想（セグメント別）

＜業績予想（セグメント別）＞

（百万円）

	2025年3月期 実績		2026年3月期 予想		前年比	
	売上高	営業利益※1	売上高	営業利益※1	売上高	営業利益※1
機械装置	25,885	4,931	24,700	4,500	△1,185	△431
高圧ガス	20,400	1,372	20,500	1,390	+100	+18
溶接機材	8,164	583	8,200	600	+36	+17
その他	756	192	1,600	210	+844	+18
単純合計	55,206	7,079	55,000	6,700	△206	△379
調整額※2	—	△1,631	—	△1,600	—	+31
連結	55,206	5,448	55,000	5,100	△206	△348

※1 営業利益：各セグメントの数値は調整前ベース

※2 調整額：報告セグメントに帰属しない全社費用（一般管理費）等

中期経営計画 NEXT STAGE 2026 進捗状況

目標とする指標に対する進捗状況

- 2026年度末の目標値に向けて、2024年度はDBCファイバーレーザの販売が好調なことに加えて、サウジアラビア案件の寄与もあり、想定以上のペースで進捗。目標達成に向けては引続き機械装置セグメントの動向がポイント。

分類	指標	2023年度実績	2024年度実績 (初年度)	2026年度目標 (最終年度)
成長性/収益性	連結売上高	513億円	552億円	570億円
	経常利益	51億円	60億円	63億円
	経常利益率	10.0%	11.0%	11%
効率性	ROE	8.4%	8.9%	10%
	ROIC※	9.5%	10.2%	10%
株主還元	配当性向	27.5%	30.1%	30%以上

※税引後経常利益ベース

施策に対して取り組んできたこと・今後取り組むこと

セグメント	中計骨子	2024年度の実績	今後の取り組み
機械装置	- DBCファイバーレーザ切断機の更なる高性能化と拡販 - 新たな取り組み	- 省人化ニーズの高いシャーリング業界向けにDBCファイバーレーザを着実に拡販 - 米国向けDBCファイバーレーザは第一号を受注（5月末据付完了予定） - 造船業界へ従来よりも省電力化・切断速度を向上させた新型プラズマ機を納入	- シャーリング業界向けにDBCファイバーレーザ拡販 - 造船業界向けに開先DBCファイバーレーザ（斜めに切断可能な機能）を開発・販売 - 米国向けにDBCファイバーレーザの拡販 - 切断現場の自動化を目指した周辺機器の研究開発に注力
高圧ガス	- 産業用ガスにおける取り組み - 医療事業	- 産業用ガスでは、価格改定を進めるとともに、販売量拡大に向けて機械とガスの一体販売推進 - アセチレン生産体制見直し - 医療事業では院内感染防止器具（吸引器）の新製品を発売するとともに、新病院での大型案件を受注	- 産業用ガスでは価格改定を進めるとともに、販売量拡大に向けて機械とガスの一体販売推進 - システム活用による配送効率化 - 医療事業では在宅医療拡大の流れの中で呼吸器関連のレンタル強化と、院内感染防止器具等の新製品の開発推進
溶接機材	お客様の課題解決につながる溶接関連機器を提供	お客様の省人化に寄与するファイバーレーザ溶接機を新発売	- 人手不足や脱技能化といった課題解決に資する商材としてファイバーレーザ溶接機などの拡販 - 従来からの商材である溶接材料・器具の販売についてメーカー・代理店と一体となってテコ入れ
その他	- 環境関連（リサイクル事業） - 新たな収益事業への取り組み	- 主に台湾等の海外液晶パネル製造メーカー向け排ガス処理装置販売が好調 - 特殊配管（超高圧、超真空、超低温）案件の受注拡大	- 排ガス処理装置とともにヘリウム液化装置の販売推進 - 特殊配管の生産能力拡大

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み①

株主・投資者との対話の実施状況

<当社の昨年度取組み>

- ・ 機関投資家とのIRミーティング実施回数は2023年度以降、大幅に増加し、2024年度も精力的に取り組む。ミーティングを通じて認識した課題は取締役会で共有。
- ・ 2024年度から、機関投資家向け決算説明会を開始（説明者は社長）。

<機関投資家とのIRミーティング回数>

年度	回数
2021年度	5
2022年度	6
2023年度	44
2024年度	54

<認識した課題と対応策>

課題	対応策
株式流動性の低さ	・ 株式分割の実施
当社に対する認知度の低さ	・ IR活動の強化（IRミーティング活発化、機関投資家向け決算説明会実施、IR担当者増強） ・ 広報活動強化（千葉ロッテマリーンズ等）
現金、政策保有株式の多さ	・ 投資の着実な実施 ・ 株主還元の強化（配当性向30%以上） ・ 政策保有株式売却は諸状況考慮しながら検討

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み②

資本計画

2024年度実績

2024年度
営業活動における
キャッシュフロー

36.7億円

研究開発投資 5.3億円

- ・ DBCファイバーレーザ高性能化
- ・ プラズマ機高性能化
- ・ 医療事業新製品開発

等

設備投資 22.5億円

- ・ 東北営業所新社屋建設
- ・ 大型切断機デモ機構築
- ・ 医療事業におけるレンタル用資産購入

等

株主還元 10.9億円

- ・ 配当（配当性向30.1%）

2025年度計画

2025年度
営業活動における
キャッシュフロー

50億円～60億円

研究開発投資 7～10億円

- ・ 開先DBCファイバーレーザ開発
- ・ DBCファイバーレーザ高性能化
- ・ プラズマ機高性能化
- ・ 切断現場の自動化を目指した周辺機器

等

設備投資 15～25億円

- ・ KOIKEテクノセンター建物設備更新
- ・ 生産設備更新
- ・ 産業用ガス関連設備更新
- ・ 医療事業新製品用金型
- ・ システム関連（ERP導入、PC入替等）
- ・ 有休土地活用（グループ内で利用）
- ・ 工場太陽光発電設備設置

等

株主還元 10.1億円

- ・ 配当（配当性向31.6%）

- ・ 上記以外にもM&A、人的資本への投資等検討します。
- ・ 自己株式取得については、諸状況を考慮しながら機動的に対処します。

APPENDIX

会社概要

会社名	小池酸素工業株式会社
本社所在地	東京都墨田区太平三丁目4番8号 KOIKE Bld.7階
創業年月日	1918年10月15日
会社設立年月日	1936年12月8日
資本金	40億2847万2259円
上場区分	東証スタンダード（コード：6137）
従業員数	連結 1,060名、単体 325名（2025年3月31日現在）
代表者	小池 英夫
事業内容	ガス・溶接・切断のトータルシステムサプライヤーとして、鉄やアルミ・ステンレスなど金属材料を加工するあらゆる産業に様々な種類のガスおよび溶接・切断のための加工機械やシステムならびに関連製商品を開発・生産・販売
国内製造拠点	【機械装置】KOIKEテクノセンター（千葉市緑区）、【切断器具、医療機器】株式会社群馬コイケ、【ガス】千葉工場、白井工場、兵庫工場、その他充填会社
国内販売拠点	関東支社、京葉支社、札幌営業所、東北営業所、茨城営業所、北関東支店、名古屋支店、大阪支店、神戸営業所、中国支店、四国営業所、九州支店、長崎営業所 他
国内グループ会社	株式会社小池メディカル、コイケ酸商株式会社、株式会社群馬コイケ（以上、連結子会社）、株式会社コイケテック、株式会社菱小、小池化学株式会社、中国アセチレン株式会社 他
海外グループ会社	Koike Aronson,Inc.、Koike Europe B.V.、Koike Korea Engineering Co.,Ltd、小池酸素(唐山)有限公司（以上、連結子会社）、Koike Cutting & Welding(INDIA)PVT.LTD 他

会社概要

<経営理念>

ガス・溶接・切断の総合製造・販売会社として
世界市場での顧客の満足と信頼を獲得する

<事業セグメント>

高压ガス



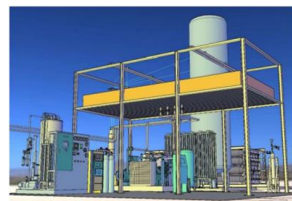
機械装置



小池酸素工業 グループ

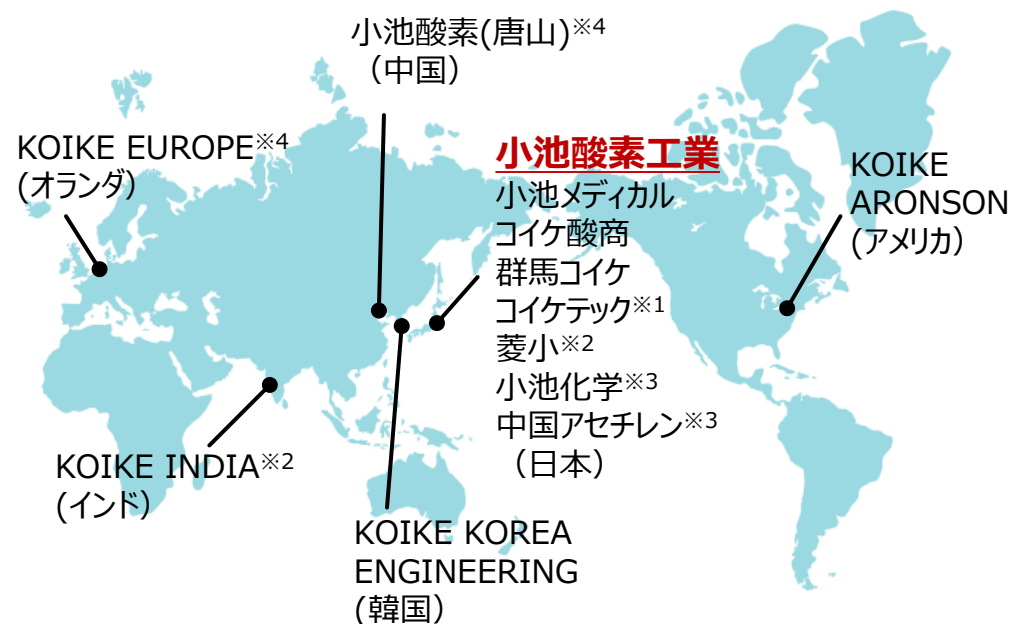


溶接機材



その他

<グローバルネットワーク>



※1 持分法適用会社

※2 非連結子会社

※3 関連会社

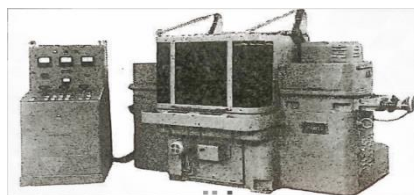
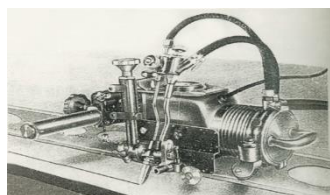
※4 別途、中国、フランス、イタリアに販売子会社あり

KOIKEヒストリー

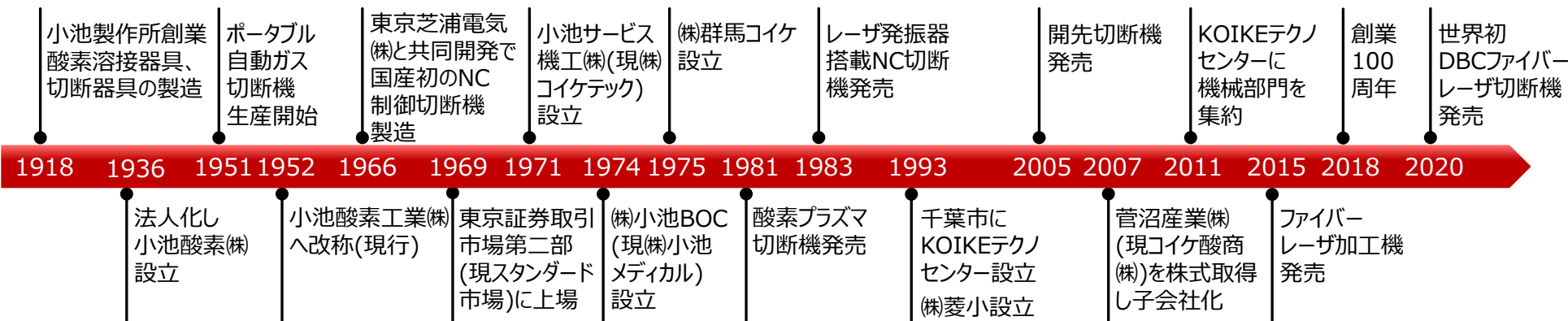
KOIKEは1918年(大正7年)の創業以来、ガスエネルギーを利用した工作機械のオピニオンリーダーとして、基幹産業発展の一翼を担ってきました。

時代の進歩とともに、他に先駆けて「ガス」「プラズマ」「レーザ」を利用した切断機を開発し、NCによる高度な自動システムを製品化してまいりました。また、ガス・溶接・切断のトータルシステムサプライヤーとして、お客様のあらゆるご要望にお応えできる体制を確立するに至っております。

KOIKEはさらに続く100年もこの国の、そして世界のモノづくりの礎となっていきます。

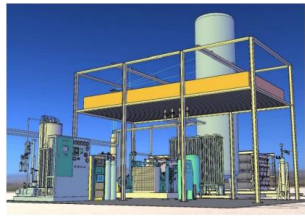


国内



海外

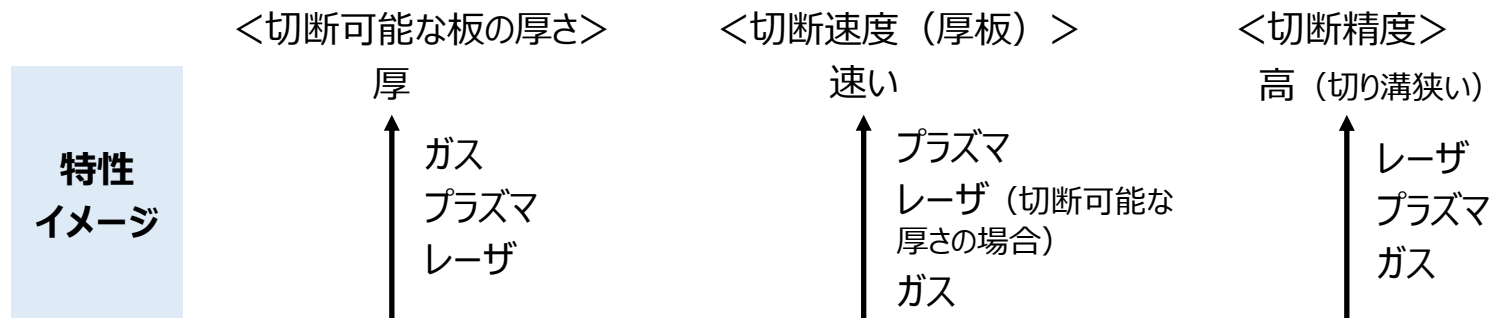
セグメント概要

セグメント名	売上比率 (2024年度)	製品ラインナップ	概要
機械装置	46.9%	切断機、溶接治具、関連ソフトウェア等  	- 厚板切断を中心に、熱切断（ガス・プラズマ・レーザ）技術を活かし、半自動のポータブル切断機から大型のCNC切断機まで多くの機種を製造販売。周辺機器から関連ソフトウェアまで幅広く取り扱う。 - 販売先は造船、建築資材、橋梁、建設機械向けが大半。
高圧ガス	36.9%	ガス、関連機器、医療機器等  	- 産業用・医療用主体に高圧ガスを製造・販売。シリンダーガス（ガスボンベ）供給メーカーとして、全国に充填工場を構え、販売店、各業種の工場及び病院向けに納入。 - 医療分野では呼吸器関連中心に展開し、CPAP、酸素濃縮器、酸素流量計、吸引器、パルスオキシメーター等を取り扱う。
溶接機材	14.8%	溶接機、溶接ワイヤ、溶接関連資材等   	- 溶接関連機材・製商品の国内代表メーカーと提携し、商社として、溶接機・溶接ロボット・溶接自動化装置や溶接材料を販売。 - また、各種産業機器・保護具等、生産現場で必要な器具を幅広く販売。ガスホース接手や乾式安全器では、国内・海外のトップブランドであるアポロロックを有す。
その他	1.4%	排ガス処理装置、ヘリウム回収精製装置等  	- 液晶や半導体製造に使用される可燃性ガス、毒性ガス等を独自の方式で燃焼、分解させる燃焼式排ガス処理装置を製造・販売。 - 大学や研究機関で使用されるヘリウム液化機や、光ファイバーや半導体等の製造工程中に利用されたヘリウムガスを効率良く回収・精製しリサイクルするヘリウム回収精製装置を製造・販売。

ガス、プラズマ、レーザーについて

- 切断材料となる金属は大きく分けて薄板（自動車等）と厚板（造船、建築資材、橋梁、建設機械等）があり、当社は厚板を中心とした切断機を取り扱う。厚板切断機は薄板用と比較するとニッチな市場。
- 切断（溶断）方法は、主にガス、プラズマ、レーザーの3種類。いずれも熱エネルギーで金属を溶かして切断することは同じだが、それぞれ特性があり、使用目的によって使い分けされる。

切断方法	概 要	主な 切断用途
ガス	ノズルの先端で形成された炎によって、切断部を加熱し、そこに酸素を吹きこみ、酸化反応を起こさせるとともに、溶融した切断材料を吹き飛ばして切断。	造船、建築 資材、橋梁、 建設機械等
プラズマ	加工する金属と電極の間においてプラズマアークを作り出し、それにより高温になった切断材料が溶融した後、エアーやガスなどの気体を強い圧力で流し込み、溶融部分を吹き飛ばすことによって切断。	造船、建築 資材、橋梁、 建設機械等
レーザー	虫眼鏡による熱発生原理を応用した切断方法。レーザービームをノズル先端より材料に照射する際に、レンズで絞り込み、切断材料が溶融した後、各材料に最適な種類的气体をレーザービームと同軸に切断材料に吹き付けて、溶融部分を吹き飛ばすことによって切断。	建築資材、 橋梁、建設 機械等



2024年度上半期トピックス①

中期経営計画「NEXT STAGE 2026」を公表

- 5月10日に、2026年度までの中計経営計画として、「NEXT STAGE 2026」を公表。
- 「資本コストと株価を意識した経営の実現」に向けた取り組みを反映させた内容。



2024国際ウェルディングショー（大阪）への出展

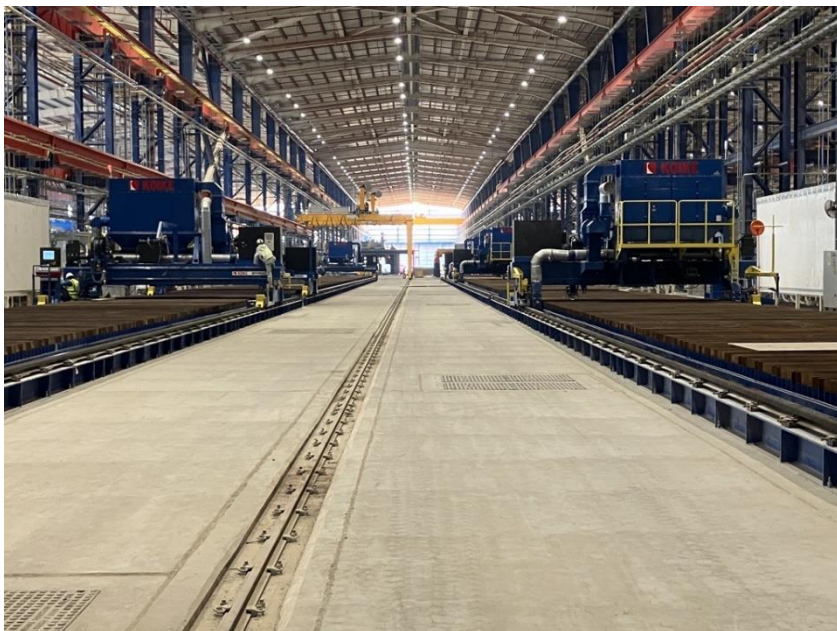
- 4月24日～27日の日程でインテックス大阪にて開催。
- 「DBC切断に勝るものは何もない」をテーマに出展し、多数のお客様が来場。DBCファイバーレーザ切断機をはじめとして多くの引き合いを獲得。



2024年度上半期トピックス②

サウジアラビア案件について

- サウジアラビア案件は、Saudi Aramco社が主導した大型造船所プロジェクトであり、2017年にスタート。
- 当社は、大型切断機24台を納入し、この10月に据付を完了した。



プラズマ切断機の新製品を発売

- 主に造船向けをターゲットに、従来のプラズマ切断機をさらに高性能化した「SUPER-400Pro II α」を販売開始。
- 従来機よりも切断面品質を向上させたことに加えて、10%の省電力化と10%の切断速度向上を実現。



本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

【お問い合わせ先】

小池酸素工業株式会社

経営企画室長：川田 担当：山村

TEL：03-3624-3118

Email：IR@koikeox.co.jp

YouTube KOIKEチャンネル ★チャンネル登録お願いします★

<https://www.youtube.com/@koikesansokogyo2140>